

官民連携による都市公園の魅力向上と新たな賑わいづくり

— 笠間芸術の森公園「あそびの社」スケートパークの整備 —

事業目的

笠間芸術の森公園は、伝統工芸と新しい造形美術をテーマとした県営都市公園で、陶炎祭の会場となるイベント広場や陶芸美術館、大型遊具を核とした「あそびの社」等の様々な施設を有していますが、10～20代の若者の客層が少ないという課題がありました。

そこで、新たな客層を呼び込み、更なる賑わいを創出するため、東京五輪の正式種目となり関心が高まっているスケートボードやBMXが楽しめる施設を、笠間市と共同で整備しました。

事業概要

- ・整備面積：約2.3ha（うちスケートパーク 4,500㎡）
- ・事業期間：平成29年度～令和2年度
- ・特徴：初級者から上級者まで多くの方々が楽しむことができ、国際規模の大会やイベントが開催できる高水準かつ国内最大級の施設として整備。

スケートボード施設全景



笠間芸術の森公園
(H4年開園/開園面積38ha)

【官民連携の取組】

○設計

施設の規模や配置等について、日本スケートボード協会や地元有識者から、技術的・専門的見地からの意見・助言を仰ぐ。

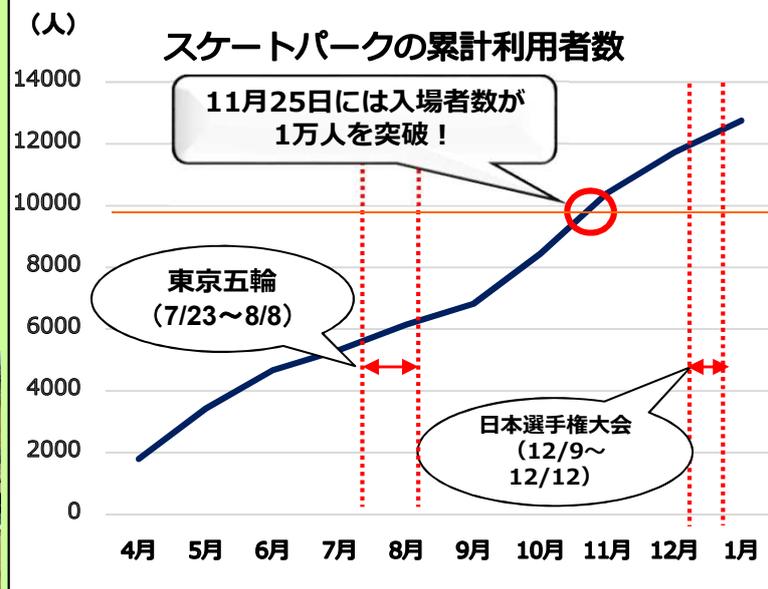
○管理運営

スケートパークの運営や各種大会・イベントの開催実績が豊富な民間事業者による独立採算での運営により、行政の管理費負担なし。

事業効果

令和3年4月の開園以降、月平均1,000人を超える、若者を主体とした新たな客層の増加が見られ、公園の更なる賑わいや周辺地域の活性化に大きく寄与しています。

また、アメリカやフランスの東京五輪キャンプ地に選定され、全日本選手権も開催されるなど、地元笠間市や県央地区の新たなスポーツ活動や観光の拠点としての魅力向上に繋がっています。



(第4回日本スケートボード選手権大会の様子)